

令和4年度
文化芸術による子供育成推進事業—巡回公演事業—

劇団風の子 児童劇公演



「文化芸術による子供育成推進事業—巡回公演事業—」

我が国の一流の文化芸術団体が、小学校・中学校等において公演し、子供たちが優れた舞台芸術を鑑賞する機会を得ることにより、子供たちの発想力やコミュニケーション能力の育成、将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上につなげることを目的としています。

事前のワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演では、できるだけ子供たちにも参加してもらいます。



文化庁



■出演者
島ちゃん 川島夏
たつあん 松田琢也
・ますだ屋 田畑祐馬
五郎ちゃん 井部直人
ブーヤン 宮澤衣路
斉藤 藤 中瀬かほ
安田・DJ

■劇をつくった人
作・脚本 田中つとむ
演出 中島研
音楽 曲尾友克
美術 浅野井優子
監督 劇団風の子大道具プロジェクトチーム
森恭次郎

あらすじ

小学四年生の男子四人と女子がひとり、そんな五人の物語。
自分たちがつくったひみつ基地がマンションの建設のため壊された。
「くそっ!」
皆、走って走って走って…、着いたところは橋の下。
「新しいひみつ基地をつくるまでは、ここを集まる場所にしよう!」
今度の学年お楽しみ会の出し物に、自分たちのやりたいことをやろうと言い出したものの、歌は無理だし、ダンスはもつと無理。
「じゃ、劇やらない?」「えー!」
と劇に決まる。
テキスト「小学校劇の本」を読みながら、斉藤は、ますだ屋のおばさんから借りた本「熊と弓」を台本にして、五郎ちゃん、たつあん、ブーヤン、島ちゃん、そして女神の役をクラスの人気者安田さんに頼むことになり、六人での劇の練習が始まった。しかし、いろんな困難が押しよせてくる。さあ、六人はこの大きな壁を乗り越えることができるのでしょうか…。



劇団風のこ

こいつって

劇団風のこは、第2次世界大戦が終わってすぐの1950年に、子どもたちのための専門劇団になろうと創立しました。

それからもう72年になります。が、ずっと日本中の学校をまわったり、世界のいろいろな国の子どもたちに劇をみてもらってききました。

劇をしながら、世界が平和になることや、子どものみなさんが、自分の目で物事を見、自分の頭で考え、自由に未来にはばたいていくことを願っています。



↑ たいいくかん つか ぶ たい げきゆうげき くま ゆみ
↑ 体育館をいっぱいに使った舞台 劇中劇「熊と弓」より→



作者から皆さんへ (上演にあたって)

「生きるのって楽しい」
 ぼくは生まれてからこ
 れまで、おとうさん、お
 かあさん、おじいちゃ
 ん、おばあちゃん、た
 さんの友だち、近所のお
 じさん、おばさん、いろ
 んな人に支えられて、六
 十歳を過ぎることができ
 ました。そして今はお芝
 居をしながら、楽しくて
 楽しくてしかたのない毎
 日を送っています。
 子どものころは自分が
 嫌いで、友だちがうらや
 ましくて、ときどき生き
 ていくのがつらいと思う
 こともありました。
 今、悩んで苦しい気持
 ちになっている人もい
 るかもしれません。そんな
 人がこのお芝居をみて、
 「生きるのって楽しい」
 と感じ、少し元気になっ
 てもらえたら、ぼくは幸
 せです。

知ってますか? ～10月1日は「国際音楽の日」です～

1977年にユネスコの要請で設立された国際音楽評議会という会議で、翌年の
 1978年から毎年10月1日を、世界の人々が音楽を通じてお互いに仲良くなり交流
 を深めていくために「国際音楽の日」とすることにしました。
 日本では、1994年から毎年10月1日を「国際音楽の日」と定めています。



劇団 風の子

〒192-0152 東京都八王子市美山町1320-1

TEL042(652)1001 URL <http://www.kazenoko.co.jp> E-Mail tokyo@kazenoko.co.jp